
異世界？チートでおｋ

如月刹那@m 9

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界？チートでおく

【著者名】

NZマーク

N37860

【作者名】

如月刹那@m9

【あらすじ】

異世界に召喚されたサイトはヤケになつて召喚魔法の真似事をしたらほんとに召喚できちゃつて・・・

人生不幸すぎた・・・不幸すぎた・・・
死に方も最悪だつた・・・
なんかもう力キにあたつて死ぬなんて思わないだろ・・・

???

「セヒ・・・ヒヒせどじだ？」

おなじみの言葉を口にする

そこにはおなじみのジジイがいた

「ほつほつほ「お菓子好きかい？」うん大好きWAつてちがーうー！」

おーー！いつノリがいいな

「お前誰？」

「わしは神じや」

「あ・・・はい・・・いい病院紹介しますよ・・・」

「いやいやまつてくれ！本当にだから、ね」

「あーはいはいその神様がなんのようですか」

「お主・・・信じないじやろ・・・」

「うん（キリッ）

「名前如月刹那・・・職業学生・・・ひきこもり・・・性癖・・・「ちよつ
まつたー」

「なんで俺のことがわかるんだよマジで本当に神・・・？」

「うん」

「・・・」

「ええねえ・・・だらまじで・・・

「何の用？」

「暇だからちょっとお主に転生を

「マジで！？」

やつたぜ k t k r w k t k 僕は勝ち組だ

「じゃあ能り y 「能力を想像し創造程度の能力で・・・」

「まあいいかの・・・」

「行く世界は?」

「秘密」

「姿かたちは・・能力でかえられるじやろ・・」

目の前にいきなり扉が現れた

「この扉に入れば s 「いつてきまーす」」

「行つてしまつた・・・まあ面白ければまあいいかの・・・」

1話（後書き）

これはひどい

刹那

「さて・・・着いたか・・・」

「ん?なんだこれ?神からの伝言だ」

「ここにはゼロ魔の世界で原作開始の五年前に飛ばしておいたぞ、しつかり能力の練習をして原作ブレイクをするんじゃ」

おく把握・・とりあえず家が要るな・・

「すべてを作り出す程度の能力」

さて・・何の家にしようかな・・・城・・・屋敷・・・うん、決めた

「製作!」

まあしゃべらなくても作れるのだがなんとなくいいいたくなつた。

「おおお紅魔館だ!」

「さつそく中に入つて姿を調整するか・・・

・・・・・あれえーおかしいぞおー姿変えてないのになんで羽があるのしかもフランドールの・・・・

「まあ・・・姿変えれば戻るか・・・」

姿はもちろんマリク先生で・・・・・

「マリク先生ハアハア」

ん?なんか変な電波を受信したぞ・・・

「・・・・あれ?」

姿かたちは確かに変わっていたしかしそこにあるはずのない歪な羽があつた

「なんでえー?あ、さつきのに続きがある・・・

「ps:羽自体は変えられるけど羽は消せないから・・・」

「・・・・・・・・・」

街いたら絶対異端審問にかけられるよ・・・・・・・・・・

ここで五年間過ごせつてか・・・・・

まあしかたない頑張つて能力を完璧に扱つか・・・・・・

1年目で能力を完璧に使いこなしたある日

「ここは・・・」

ここは神にあつた時の空間だった

「久しぶり」

「なんだ神?」

「謝りたいことがあつてな、後わしの名前はゼウスじや

「んで?ゼウス、用件は?」

「実はお前を転生させた理由は暇だつたからじゃないんじや・・・

「え?」

「わしの名前から推測できるじや わしがわしは最高神ゼウスじや

「はあ・・・」

「で・・・お前には、わしの後継者になつてもいい」

「え?」

「ちょっとまて・・後継者つてことは俺が神になるつてことだよな

「ん?お前はすでに神だぞ」

「は?・・・いやいやどゆこと?・?」

「お前は今はまだ最高神とはいかないが既に高位の神じやから寿命もないし神じやなかつたら「能力を想像し創造する程度の能力」なんて渡さんかつたぞ」

「へーじゃあ俺は神なのか・・でもなんで転生させたんだ?」

「試練じや最高神に簡単にになれると思つた、試練の内容は

1-1の世界で使い魔として召喚されるから主が死ぬまでこの世界にいる

2別の世界に行き100年~110年そこで神になるための修行をする

3わしの後を継いでもうつじや

「まあ1は元の世界で生きれなかつたぶんの償いじゃ

「そりかありがとな・・・じゃあな・・・」

「刹那・・・わが息子よ・・・頑張つてこいよ」

そして4年の月日がたつていった・・・・・

2話（後書き）

キャラが崩壊します

パンシょっぱなの方がヒロイヒロイとは俺だけ？

サイト

なんだよこれ召喚！？なんだよ！ふざけんなよ！

「ちょっとアンタ聞いてるの？」

「うるさい、どこの誰でもいい俺のところへきやがれ！…！」

「平民のあんたが召喚できるわけないじゃない」

その瞬間爆発しそこには一人の人人がいた

刹那

さて・・・五年たつたが・・・ん？・・・

「ウホツいい鏡・・」

さて・・・俺は誰に召喚されるのかなあー

「ダーティ」

「神を呼び出したのはどこのどいつだ？」

さて・・・誰に召喚されたんだ

「俺だ」

「は？」

やべこえにでちまつた

「え～男とキスなんてしたくなえよー」

「それはこっちのセリフだ！」

んー絵図的に男×男だと腐がわいわいやつからフランデール・・いや・

・ヘリリアになる！

そこには一人の人間がいた・・いや人型がいた

一平民が平民を召喚したそー

!? フランドル!?

「神を召喚したのはどこのどいつだ？」

卷之三

「は？」

は？じやねーよ何で召喚したかなんてしらねーよ

「男とキスなんかしてしねくれたよ！」

彼は少し悩んだ後突然彼が光り始めた・・・光り終えたときにはそ

二三九

「 これらなら大丈夫よね ・・ 」

俺の嫁だとっ！！

レミーテタンノアノア

「すゝめさんで

契約の言葉以下省略

キスしてやつたしかもディープでwww
しかしさイトの反応はキモかつたな・・・
おつと・・手が熱い・・が・・・
「この程度の熱さなんて神から見ればぜんぜんだな」
「契約・・完了・・・」
「よろしくな俺は刹那・スカーレット女性状態のときめく//リコア・
スカーレットだ由緒正しきスカーレット家だ」
「よろしくな俺は平賀サイト」
「ちなみに俺の魔法のレベルはオクタゴン以上だ」
ざわ・・・ざわ・・・
「それにしても君たちのルーンは珍しいルーンだな」
「さてと、じゃあ皆教室に戻るぞ」
そう言つと皆が浮かびだす。
「ルイズおーm(ー)y」
「アイツフライ(ー)y」
そう言われて広場には3人だけになつた
「アンタ達、なんなのよ!」
「お前こそなんなんだ!」
「お前こそなんんだ!」
「お前達は何なんだ!何で飛
ぶ!俺の体で何をした!」
「つたぐ、どこの田舎から来たのよ」
「まで、まず部屋に戻ろう」
「アンタたち一緒に歩いてきなさい!」
「・・・なんでアンタが飛べるのよ!」
え?そりやあ
「だつて羽あるし・・・」
「つーかその羽で飛べてんのかよ・・・」
うるせーサイト
「は、羽なんてどこにも

「あるだろ、ほら」

そつとつて後ろを向く

「何？この飾りは？」

「これが俺の羽なんだよ・・・

「え？嘘！？・・・そつ残念」

？

「何が残念なんだ？」

「そのきれいなやつあとで指輪にしようとしたのに

ルイズ＝・・・

「まあなんだ寒いしわざとこへば」

「わ、わかつたわよ

「応つ」

「はあ？異世界人？」

「そうだけど？何か？」

「俺は神だ」

「そんなの信じられないわよー」

「サイト・・パソコンやら携帯ぐらいはあるだろ、それでも見せてやれ。少しは信じるだろ。」

「何？この魔法は？」

「これは科学だ」

「全く・・・アンタ達何なのよ・・・

「神」「異世界人」

「とにかく・・まあしょうがないから少しごらい認めてあげるわ。つてそつちの名前なんだっけ？」

「刹那・スカーレットだよろしく」

「私はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエー

ル

「よろしく・・・」主人

「お前の主人は俺だろ?」

「サイトの主人だからご主人って呼ぶのは当たり前だろ

「それで俺の故郷は月が一つしかないぞ? それであんなに大きくもない」

「無視しないで。 つて月が一つ?」

「そうだ。 そう言えば魔法使いがいない」

「こんな馬が現役なところじゃないが?」

「そんな世界がどこにあるの?」

「あつちにある」

「俺がいた所はそっだつたんだよ!」

「怒鳴らないでよ。 平民の癖に!」

「で、本題からすればアンタ達は異世界から来たの?」

「俺のいた場所では世界中リアルタイムで大体のことが分かるけど魔法で誰かが死にましたなんてことは無かつたよ。 魔法なんて空想上だよ? 信じてれば笑いものになるぐらい」

「その通り」

「話を総合すると俺は帰れない。 使い魔2度無理。 死ねば。 ファンタジー万歳な世界つてことでいいのか?」

「だね」

「・・・分かった。 しばらく使い魔とやらに付き合つてやるよ」

「あ・・そう」

「さてねるか

「ちょっと部屋の隅借りるよ」

「いいわよ・・・なんで囲いで囲むの?..」

「俺の寝室だから当たり前だろ」

「中どうなつてんの?」

「ハリなつてゐる」

ルイズ

「ひつひつてる」

中にはすごい豪華な部屋があった

「すじい・・・」

なによこれ、私の部屋よいつすごいじゃな

サイト

「なあ俺の部屋は？」

「あ、まだベットないから明日ね

(・・・)

「そうだ、

ん?なんだ?

「何?」

「何だ?」

「お休み~

・・お休み

「お休み

そして1日が終わった。

パンシヨリっぽいの方がヒロイーと思うのは俺だけ? (後書き)

作者 三話田キタ

刹那 とゆうか小説もアニメも見たことないのにこれ書いた作者を
俺はいろんな意味で尊敬するわ・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3786o/>

異世界？チートでおk

2010年10月28日07時21分発行